



— Pro Tools初期設定で、クリップゲイン ナッジ値を0.5dBに設定してください。



— クリップゲイン用のキーコマンドがOSで使用されていないことをご確認ください: Shift+Control+上下矢印キー

— 「次のクリップを選択」するキーコマンドがOSで使用されていないことをご確認ください: Control+TAB

(OS X環境設定>Mission Controlを確認)

— クリップを選択し”Analyze”(分析)をクリックします(”Render”ではない)。

— RMSを基準とした動作は”work to RMS”をクリックします。



DefaulterはクリップのピークもしくはRMS値を分析し、指定した最大値に合致するよう0.5dB単位でゲインを調整します。

ピークがスレッシュホールド以下のクリップは無視されます。

このプロセスは以下のように自動化できます：

(注：これらのマクロは便宜のため提供しており、Quiet Art Ltd.はKeyboard MaestroやStairways Softwareと提携等の関係は一切ありません。)

- 付属のマクロを使用するには、Keyboard Maestroアプリケーションを<http://www.keyboardmaestro.com/main/>からダウンロードします。Keyboard Maestroにこれらのマクロをインポートするには、Defaulterの.dmgイメージから"Defaulter1.5.kmmacros"を書類フォルダーへコピーし、ダブルクリックします。
- 試用バージョンは一定期間機能します。もしご購入される場合は特別割引をご利用できます：<http://www.stairways.com/action/kmdiscount?QUIETART>
- また、以下のキーコマンドを別のマクロアプリで使用することも可能です：

各クリップが処理された後、Defaulterは次のキーコマンドを送信します：shift + control + option+ command + D

一つのクリップで数回処理を試みた後(トラック最後のクリップと解釈)には次を送信します：shift + control + option+ command + K

- 最初のクリップを選択する前にすべてのフェードを削除してください。

- 他のAudio Suiteウィンドウをすべて閉じてください。

- 付属のマクロは1トラックごとにDefaulterで処理するようにできています。しかし、トラック上のクリップが「チェッカーボード」状に配置されている(重複がない)場合に限り、複数のトラックを選択して一度に処理を施すことも可能です。この際はタイムラインの終わりで処理が停止されるように"move down"マクロを変更する必要があります。
- 開始するにはタイムライン上の最初のクリップを選択し、"Analyze"("Render"ではない)をクリックします。Defaulterは1クリップ毎に調整を加えていきます。
- 処理したいトラックの下に空トラックを作成します。これによりマクロは停止します。
- 用途に合わせてマクロを編集することも可能です。

よくある質問やトラブルシューティングに関しては次にアクセスしてください：<http://quietart.co.nz/defaultersupport/>